

MUTSUMI GROUP

医療法人 むつみホスピタル広報誌



4

2026
April

今一番熱いスポーツ —— それはバスケットです。

徳島ガンバロウズと私 … 4

医療に福祉、入退院 … まずはご相談ください！

地域連携室・相談室のご案内 … 6

給食だけじゃない！実はいろいろやっています

管理栄養室の取り組み … 8

スポーツからスイーツまで♪

部活動紹介 … 12



特集

クロザピン外来

どんな薬？
どんな人が対象？



「どんな薬？」 「どんな人が対象？」 がわかる！

クロザピン外来について

(精神科医・木下 誠)

本稿ではクロザピン(商品名クロザリル)について説明します。当院ではクロザピンによる入院治療を積極的におこなっています。また、統合失調症の症状が改善せずに悩んでいる患者さんやご家族の相談を受けるため、クロザピン相談外来を開設しています。本稿を読んでクロザピン治療に興味を持たれたらぜひとも当院にご相談ください。

統合失調症の治療薬の歴史

1952年にクロルプロマジンが精神症状を改善させることが発見されて以降、統合失調症の治療薬はドーパミンD2受容体遮断作用を特徴とする抗精神病薬が担ってきました。錐体外路症状や過鎮静などの有害事象が問題とされた従来型の抗精神病薬の弱点を克服するべく改良された非定型抗精神病薬が、現在の統合失調症薬物治療の主流です。

統合失調症治療の課題

統合失調症は再発再燃が多い疾患です。圧倒的に影響が大きい理由が、服薬中断です。再発再燃を繰り返すと何が悪いのでしょうか。再発再燃を繰り返すと、陰性症状や認知機能障害は蓄積します。最初はすっきりと良くなって仕事に復帰できたのに、次の再発では仕事を続けられなくなり、その次は家で生活するにも家族の手助けが必要になり、さらには退院も困難になる、という風に再発再燃を繰り返すと障害が蓄積していきことがあります。抗精神病薬が奏功せず、退院することが難しい患者さんも一定数います。抗精神病薬を十分量用いても良くならないこともありますし、有害事象のために抗精神病薬が十分量使えないこともあります。最近は、抗精神病薬を大量に使いすぎることで脳内のドーパミン機能が変化してしまい、抗精神病薬を少し

減らしただけで症状が大きく悪化するという、ドーパミン過感受性精神病も問題とされています。抗精神病薬の治療が奏功しない統合失調症を治療抵抗性統合失調症と呼びます。統合失調症の治療は薬だけではありません。心理社会的治療も必要不可欠です。疾患について理解するための心理教育、ストレスへの対処方法を知り、柔軟な考え方を身につけるための認知行動療法、社会生活を行う上で必要な技術を学ぶ社会生活スキルトレーニング等も重要です。また、服薬を継続するための精神療法的なアプローチも大切です。社会福祉サービスを最大限活用することも有用ですし、そのために多職種が関わるチーム医療が重要なことも当然です。しかしそのような治療を行っても、一定数の患者さんは十分に改善しません。統合失調症の20～30%は治療抵抗性統合失調症といわれています。

治療抵抗性統合失調症と クロザピン

2種類以上の十分な量の抗精神病薬を十分期間用いても反応が得られない場合を反応性不良と言います。抗精神病薬を使おうとしても、有害事象のせいで十分に増量できず、十分な治療効果が得られない場合を耐用性不良と言います。いずれかの基準を満たした場合に治療抵抗性統合失調症と判断されます。

1970年頃に使用されたクロザピンという抗精神病薬があります。無顆粒球症という、白血球が極端に低下する状態となって死亡する症例が相次いで報告されたことで、多くの国で一時販売中止となりました。

しかし1980~90年代になって治療抵抗性統合失調症に効果があることが示され、再び日の目を見ることとなります。日本では2009年に承認。以来**クロザピンは多くの治療抵抗性統合失調症患者さんに用いられています**。私も、長年退院ができずに苦しんでいた患者さんが良くなって退院し、自宅で生活できるようになったり、社会復帰への歩みを始められ

たりといった症例を何人も経験しています。しかし日本でのクロザピンの使用はまだまだ少ないのが現状です。わが国では、12~20万人（人口10万人あたり100~166人）の治療抵抗性統合失調症の患者がいると推測されています。2018年頃の報告によると、人口10万人あたり5人程度にしかクロザピンは使用されていないそうです。この使用頻度は、多くの国に比べても10分の1以下の数字です。また、2020年の時点でも1万人に満たない患者にしかクロザピンが投与されていません。有害事象には注意が必要ですが、必要な患者さんには是非とも届けたい薬です。

クロザピンのメリット

① 死亡率が下がる

統合失調症では、一般人口に比べて平均寿命が短いことが知られています。クロザピンを継続して服用することで、様々な疾患による死亡率が下がると報告されています。

② 再入院が減る

統合失調症は再発再燃が多く、入院を繰り返す疾患です。再入院が減ることは、病状の進行を抑制し、患者さんの社会参加を促進する影響もあると思われます。

③ 心因性多飲症に効果がある

統合失調症では多飲水がみられることがあり、電解質異常から意識障害を引き起こすこともあります。多飲水が改善しないために行動を制限せざるを得ないことも多く、患者さんにとっても苦痛の大きな症状です。クロザピンは多飲水を軽減する可能性があるとして報告されています。

④ 自殺を減らす

統合失調症では自殺リスクが高いことが知られています。クロザピンは自殺リスクを低減すると報告されています。

治療開始には基準を満たしているかどうかの厳密な判断が必要です。入院と定期的な採血が必須で、有害事象がみられた場合は迅速な対応が求められます。当院では、クロザピンを投与できる登録医師が多く在籍しており、入院の対応も行っています。検査も行え、万が一重大な有害事象がみられた場合、徳島大学病院等の総合病院と連携をとって治療を行います。当院は県内でも有数のクロザピン導入実績がある精神科病院です。

クロザピンを検討したい時には、遠慮なく当院にご相談ください。



今、日本で一番アツいスポーツは何でしょうか。 ——それはバスケットボールです。

私と同年代の方の中には、スラムダンクを読んでバスケットを始めたという人も多いでしょう。1990年代のことです。NBAではマイケル・ジョーダン率いるシカゴ・ブルズが全盛期を迎え、エアジョーダンというバスケットシューズが爆発的に売れたのもその頃でした。私もその影響を受けて中学校のバスケット部に入部。勉強するために入学したはずが、朝から晩までバスケットのことしか考えない学生生活を送りました。その結果、高校受験には失敗してしまいましたが、今でも良い思い出であり、チャンスがあればまたバスケットをしたいと思いつけていました。

残念ながら、90年代以降はバスケット人気が続くことはありませんでした。2001年にプロリーグが発足したもののうまくいかず、2014年にはFIBA（国際バスケットボール連盟）から日本代表チームの国際試合出場資格停止の通達を受けます。これが結果的にターニングポイントとなり、Jリーグ発足に尽力された川淵三郎氏をトップに据えたタスクフォースによる検討が進み、2015年4月にBリーグが発足。ここから日本バスケット界の再出発が始まりました。

2020年東京五輪での女子代表の銀メダルは記憶に新しいところですし、男子代表では八村塁選手と渡邊雄太選手がNBAに参戦。2024年パリ五輪には、開催国枠で出場した東京五輪を除けば1976年以来48年ぶりとなる自力出場を果たしました。2022年公開の映画『THE FIRST SLAM DUNK』の大ヒットも追い風となりました。



Bリーグの人気も右肩上がりです。初年度の2016-17シーズンは総観客数約224万人、売上高約150億円でしたが、2024-25シーズンはそれぞれ485万人、651億円（B3除く）と、9年で観客数は2倍以上、売上高は4倍以上に成長しています。全国で巨大アリーナの建設が進むなど、今後が心配になるほどの盛り上がりを見せているのが現在の日本バスケット界です。

徳島もその波に乗り遅れまいとチームを発足させました。

その名も「**徳島ガンパロウズ**」。

——ださいという意見もありますが、チームオーナーの強い思いが込められたネーミングで、覚えやすく、応援の際にも声に出しやすい。実はなかなか良い名前だと私は思っています。

徳島ガンパロウズは2023-24シーズンからBリーグに参戦。3部であるB3リーグに所属し、2025年にB2昇格、2028年にB1加入を目標としました。初年度は18チーム中5位と好成績を収め、プレーオフではB2昇格まであと一步に迫りました。2シーズン目は人が多く成績を落としましたが、平均入場者数は1500人を超え、来季からリニューアルされるBリーグの2部に相当する基準をクリアしたため、2026-27シーズンは「Bリーグワン」への参戦が決まりました。大人数を収容できる最新アリーナ建設に向けて、徳島県も動き始めています。Bプレミア昇格に向かって、がんばれ！がんばれ！ガンパロウズ！





読者のみなさんの中には、バスケットボールを見たことがないという方も多いと思います。

ルールもよくわからないという人もいるかもしれません。それでもバスケ観戦は楽しめます。まずはコートが近い！前列で観戦しているとボールが飛んでくることもしばしば。男子のバスケットボールでは身長が180cmでも小さいほうです。あの選手背が低いなーと思っても、近くで見ると自分よりも背が高かったということはよくあります。中には2m超えの選手もいて、その大きさには驚くでしょう。たくさん点が入るから面白くないという意見もあります。一見するとそう見えますが、実はどの得点も簡単に入っているではありません。試合の流れが悪いと数分間点が入らないこともあります。一方で10点差くらいなら簡単にひっくり返ることもあります。その展開の速さがバスケットボールの醍醐味の一つです。プロの試合は10分×4=40分のクォーター制。あっという間に終わったと感じるくらいエキサイティングな体験ができると思います。

日々発展を続けるBリーグや徳島ガンバラウズを微力ながら応援したいという思いから、当院は2025-26シーズンよりオフィシャルパートナーになりました。ホームゲームのインターバルでは「むつみホスピタル presents シュートチャレンジ」を開催。参加者には当院オリジナルの景品をプレゼントしています。中には、むつみフェスでしか飲めない幻のコーヒー「しろたえブレンド」も含まれています。今後も開催しますので、ぜひ試合会場に足を運んでください。

徳島ガンバラウズが勝ち続けることを願っているのはもちろんですが、我々は精神医療を担う病院です。その立場からできることはないかと考えた結果、障がい者バスケのサポートに取り組むことにしました。徳島には「びんび徳島」というソーシャルバスケットボールチームがあります。びんび徳島は、精神障がい者バスケットボール競技の普及と振興を目的に設立された徳島県のチームで、月に3回、障がい者交流プラザや渦パークなどで練習を行っています。日本ソーシャルバスケットボール協会主催の全国大会にも出場するなど、精力的に活動しています。

今年度からは、びんび徳島にガンバラウズユースチームのコーチを招聘し、バスケットボールクリニックを実施しています。初回は約20人が参加し、大盛況でした。簡単なドリブル練習から始まり、シュート練習、そしてコート全面を使った5対5のゲーム形式へ。特にゲームは大白熱。私も一応経験者で、人並み以上にはバスケができると自負していましたが、みんなのペースについていくことができず……。もっとトレーニングを積まなければと、良い刺激をもらいました。

このように、むつみホスピタルは障がい者支援にも積極的に取り組んでいます。我々の活動が微力ながら、障がいのある方々の力になればと願っています。

(精神科医・木下 誠)

**Bプレミア昇格に向かって、
がんばれ！がんばれ！ガンバラウズ！**



地域連携室・相談室のご案内

現在、精神保健福祉士や社会福祉士の資格を持った8名のスタッフで運営しています。



●医療・福祉の相談

- ・経済的なことについて
- ・障害福祉サービス、介護保険サービス等の利用方法等についての相談
- ・就労に関することなどの相談対応を行います。

住み慣れたご自宅での生活が安心して行えるように、患者さんのご要望をお伺いし、一緒に考え、必要な情報提供を行っています。

●受診に関する相談

今困っていることや、症状等をお伺いし、受診予約のご案内をさせていただきます。

受診しようか迷われている方には、状況をお伺いし、一緒に考えながら気持ちを整理したり、今後の方向性を考える上での情報提供を行っています。

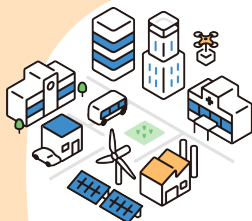


●入院相談

在宅で生活をしている方や、一般病院、精神科病院等からの転院を希望する方の相談対応を行っています。

●退院支援

在宅、施設等への退院を希望する方の多種多様な相談をお伺いし、退院後の生活の準備を一緒に行っています。退院後も相談を伺い、寄り添いながら、地域生活を支えていきます。



●地域連携、広報活動

地域の保健・医療・福祉機関や多職種を結びつける役割を担っています。当院の専門性や特徴をご理解していただいたり、ご意見を伺うために、近隣病院や施設、福祉サービス事業所等へ定期的な訪問活動を行っています。

当院で相談の多い制度・サービスをご案内します。

精神障害者保険福祉手帳

●対象となる方

精神疾患により、長期にわたり日常生活または社会生活への制約がある方

*** 初診日から6か月以上経過していることが必要です。**

●手帳の等級

障害の程度により、1級、2級、3級の3つの等級があります。

●受けられる主なサービス

手帳を取得することで、障害の程度に応じた様々な支援やサービスが受けられます。

(お住まいの自治体により異なる場合があります。)

- ・ 税制上の優遇措置
- ・ 携帯電話料金、NHK受信料等の割引等
- ・ 各種施設利用料の割引

●有効期間と更新

有効期間は2年間です。引き続きご利用する場合は、更新が必要です。お住まいの市町村役場が申請窓口です。

自立支援医療制度

精神疾患により継続した通院が必要な方を対象として、医療費の自己負担の一部を公費で負担する制度です。

●対象疾患

統合失調症、うつ病、認知症、発達障害、てんかん など

●支給対象

- ・ 精神疾患の治療のため、病院に**入院しない**で行われる医療費。
例えば、外来/外来での投薬/デイケア/精神科訪問看護等含みます。
- ・ 利用できる医療機関は、自治体が指定した自立支援医療機関です。

●有効期間と更新

有効期間は**1年間**です。更新手続きを行うことにより、制度を引き続き利用できます。お住まいの市町村役場が申請窓口です。

●自己負担額

- ・ 医療費の自己負担が、3割（または2割）から**1割負担**になります。
- ・ 自己負担の上限額は世帯の所得に応じて、月ごとに定められています。



栄養指導について

栄養管理室 山村 千春



●精神科における栄養指導とは？

精神疾患の患者さんは生活リズムや食生活の乱れが生じやすく、過食や拒食、偏った食事になりがちです。各患者さんの病状に合わせた食事内容や食習慣の提案が必要となります。また指導が心の負担にならないように気を付けながらコミュニケーションをとる必要もあり一般課での栄養指導より難しい点もあります。素直な患者さんが多いので問題点に気づいたら真面目に取り組まれる方が多いのも特徴です。



●病棟では…

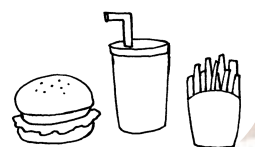
栄養健康教室等集団栄養指導を実施しています。健康に関するテーマで講義をし、栄養に関する知識を深めていただく時間となっています。腸活メニューや認知症予防メニューなどテーマに応じたレシピを考えてもらうこともあります。

●外来では…

糖尿病、高血圧、脂質異常等内科的疾患のある方に個別栄養指導を実施しています。『もっと体重を減らしたい』『血糖値を下げたい』等その方の目標に応じてライフスタイルに合わせた指導を行っています。できることから実施できるように押し付ける指導ではなく、一緒に考えて実行できるようにしています。中には20kg以上痩せた方もいらっしゃいます。ご希望あればお気軽にお問合せください。

●食生活の重要性

栄養指導を通して食事の重要性を伝えていければと思っています。体は食べたものでできているので何を選んで食べるかはとても大事です。これからもより健康的な生活ができるように色々な方をサポートしていきたいと思っています。



Live kitchen

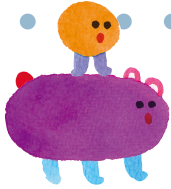


むつみホスピタルでは、デイケア来所者と新入職者を対象としたライブキッチンを開催しています。ライブキッチンでは、参加者の目の前で調理をおこない、さながらお店に来ているような感覚で出来立ての料理を食べていただいています。参加対象者はデイケア来所者と新入職者で、デイケアの場合は来所しプログラムを受けることで1日1Pを獲得し、通算120P獲得でライブキッチンへの参加権を得ることができます。10P貯まる毎にスタッフとじゃんけんをして勝つことでその日の獲得ポイントが3ポイントになったりして、約4か月ほどで120P貯めることが可能です。リピーターも多く、初めて参加した方の多くが次も頑張っポイント貯めて食べに来ようと言って喜んでくれています。新入職者は新人研修の一環として、ひとグループ3~4名でそれぞれに食べたいメニューを考えてもらい、S-1GP（新人-1グランプリ）と銘打って実際の給食として患者様に提供しています。その中で一番良かったと思うメニューを患者様・職員の投票によって決し、最多投票を得たグループにライブキッチンへの参加権が与えられます。

提供する料理は毎年内容を変えてデイケア来所者様に飽きがないようにしています。これまでには、旬の食材を使ったサクサクの天ぷらのコース。手毬寿司の盛り合わせと、握り寿司や特製巻き寿司の実演調理。ボリュームたっぷりの中中華料理のコースなどを提供し大変喜んでいただきました。令和8年度は、デイケア来所様から頂いた素晴らしい案を採用予定（内容はまだ秘密）です。

むつみホスピタル栄養管理室では、ライブキッチンを五感で感じてもらい、新入職者には新しい業務に取り組む活力。デイケア通所者様には、積極的なプログラム参加への意識の向上の手助けをしていきたいと考えています。これからも、喜ばれ満足してもらえる給食作りを目指していきます。





ニュースや雑誌で大阪・関西万博の特集を目にすることが日増しに増えていき、当院の患者様にも何か少しでも万博を体感してもらえないだろうか？と考え、お弁当を作ることになりました。ただし栄養士や調理師が内容を考えるのでは、いつもと変わらない行事食になってしまいます。万博は、国と国、人と人を繋ぎます。じゃあ、むつみホスピタル栄養管理室は患者様同士、そこに携わる職員を繋げよう！と考え、患者様と職員に「あなたの食べたいメニュー、大募集！」と銘打ってアイデアを募りました。2週間の応募期間にも関わらず、120種を超えるメニューの応募をいただき、その中から9種を厳選し、患者様と職員の想いを詰め込みました。患者様からは、自分が考えたメニューが入ってるのが嬉しい！食べるのを楽しみにしてた！美味しかった！職員の方からも良いお弁当でした、などのお声をいただき病院全体が繋がった『むつみ万博弁当』が完成しました。

大阪・関西万博のコンセプトは「いのち輝く未来社会のデザイン」です。サブテーマとして「いのちを救う、いのちに力を与える、いのちをつなぐ」とあります。今回の『むつみ万博弁当』を通じて、むつみホスピタルで働く職員と患者様が輝く未来社会のデザイン、そして患者様を救い、力を与え、つなぐことが少しでもできていたら幸いです。

むつみホスピタル栄養管理室では、食べることへの興味・楽しみを感じてもらい、健康的な体をつくり、心を穏やかに保ち、1人でも多くの患者様が社会復帰できるようにサポートをすることを心掛けています。これからも、喜ばれ満足してもらえる給食作りを目指していきます。

SWEETS CLUB

栄養管理室 山村千春



スイーツ部は2019年から活動しており、現在の部員は33名。毎月色々なお菓子を作っています。

お菓子作りは難しそう、ハードル高そうと思う方もいらっしゃるかもしれませんが、一から一人でするのは大変ですが、部員で分担しながら作業を進めるので初心者の方でも無理なくできます。その方のレベルに応じて作業を割り振るのでスイーツ好きなら誰でも参加OKです。最近はいろいろなレシピがあり、時短でできるものを中心に実施しています。

おいしいのはもちろんですが、見た目にもこだわったスイーツ作りを目指しています。

11月はシューレン。去年作った際には『シューレン作れてうれしいです。』『今まで食べた中で1番美味しかったです!』と好評だったので再度チャレンジ。12月はチーズタルトにクリスマスのデコレーションをしました。デコレーションは各自思い思いにできるので個性が出ておもしろいです。

お菓子を焼いている間はコミュニケーションの時間として活用し、普段あまり話さないスタッフ同士が会話できる場となっています。お菓子作りを通して輪を広げることができ、みんな活動を楽しみにしています。これからも美味しく楽しいお菓子作りをしていきたいと思ひます。

MUTSUMI LOVE VORTIS CLUB

しらさぎ病棟 東根由佳

MUTSUMI LOVE VORTIS CLUBは、Jリーグ徳島ヴォルティスの応援を通して、法人理念である仲むつまじい組織への道を実現する目的で2022年度に医療法人むつみホスピタルのクラブ活動として承認されました。現在活動4年目のシーズンを迎えており、クラブ会員は14名となっています。今年度より、法人シートは5席となり、希望者多数の場合は抽選を行い、観戦しています。法人シートで観戦する場合は、無料で観戦可能です。

私がヴォルティスを好きになったのは、2021年です。最初は、友人に誘われ、サッカーのルールも全く分からない状態での観戦でした。当時のヴォルティスはJ1に在籍していましたが、苦戦を強いられており、観戦は決して楽しいものではありませんでした。しかし、観戦を重ねる内に選手の名前を覚え、応援したい選手ができました。また、応援の一体感、得点時のスタジアムの盛り上がりを感じ、気付けばファンクラブに入会し、サポーターの一員となっていました。今では、ポカリスエットスタジアムでの試合は毎試合欠かさずに参加し、相手チーム主催の試合にも数回遠征に行く程、ヴォルティスが大好きになりました。地元でこんなにも熱く、応援できるスポーツチームがあることは決して当たり前ではなく、素晴らしいことであると思います。選手達は最後まで一生懸命、悲願である徳島のJ1昇格に向けて戦ってくれています。2025シーズンはJ1昇格まであと一歩でした。その届かなかったあと一歩を私達の熱い応援で一緒に後押ししませんか。



LOVE VORTIS!!!

MUTSUMI CAFE CLUB

心理室 竹岡里紗



2024年9月より活動開始しました。コーヒー好きのスタッフが集まって、県内外のお店から集めた数種類のコーヒー飲み比べ、味わいの数値化、生豆の焙煎などにチャレンジしていました。同じエチオピアの豆だったとして、お店が違ったり、焙煎度が変わったりすると、全く違う味わいになるのが面白いです。

2025年5月に開催されたむつみフェスでは、むつみカフェとしてお店！カフェ部オリジナルブレンドを出すそう！と、みんなで初めてのブレンド作りをしました。何度も試作と試飲を繰り返して生まれたのが「しろたえブレンド」です。当日は180杯近く売り上げ、たくさん「おいしい！」との声をいただけたことが本当に嬉しかったです。

普段の部活動でも、部員のみならずそれぞれがブレンド作りに取り組みました。各国のコーヒー豆の味わいの特徴を学び、利きコーヒーで舌を鍛え、作りたい味に近づけるべく奮闘しています。それぞれが作ったブレンドの味わいはまさに十人十色で、コーヒーの奥深さと難しさ、楽しさを感じています。活動場所であるコモンズビックカウンターは、スタッフみんなの通り道にあります。昼休みには休憩中のスタッフが、業務終了後には仕事を終えたスタッフが、部員でなくてもふらっと立ち寄れるのがいいなと思って活動しています。また、当院が徳島ガンバロウズのスポンサーになったことで、しろたえブレンドドリッパーパックをシュートチャレンジの賞品の1つとして提供しています。今後は病院内での活動に留まらず、地域の中に活動の幅を広げていきたいと考えています。1杯のコーヒーが色んな方とのつながりを作り出せますように。目下の目標は、次なるカフェ部オリジナルブレンドの完成です。今後のカフェ部にこうご期待！



法人理念

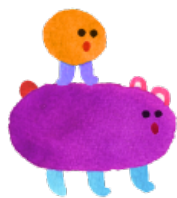
“むつみの道”を共に歩み
人生をより豊かなものとし
今を語り合って生きる

ムツミン

むつみホスピタルの理念である
「むつみの道」の世界に住む生きものたち。
豊かな心もようを持つ、
ユニークなキャラクター。

ビーン

とびぬけたセンスの持ち主。
まわりを気にせず
わが道をいく。



ポテ

のんびりおらかはいいけれど、
いろいろ忘れっぽい。

モフ

まじめでまっすぐな生きもの。
がんばりすぎるのが
たまにきず。



ミ

人なつこくて甘えん坊。
ずっと仲間からはなれない。



ムー

心がピュアで夢見がち。
大きなからだにやさしさがいっぱい。

バード

せっかちな元気もの。
とにかくじっとしていない。



ゾー

ちょっとおくびょうで、いつも
耳をすましてあたりを気にしている。



外来診療について

外来診療スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	井上英治	勝瀬 烈	村田憲治	小谷泰教	井上和俊	勝瀬烈
			六反一仁		遠藤由紀子	井上英治
		増田太利志	高野尚之	木下誠		矢幅裕二
						小谷治子 第3週のみ休診
午後	井上和俊	井上英治	矢幅裕二	六反一仁	小谷泰教	遠藤由紀子
		木下誠	小谷治子	井上秀之	村田憲治	小谷治子 第3週のみ休診
					小谷治子	

* 村田憲治：もの忘れ外来

* 小谷治子：小児科（土曜日：第3週のみ休診）

* 高野尚之：内科

受付

午前 / 8:30 ~ 11:30

午後 / 13:00 ~ 15:30

休診日

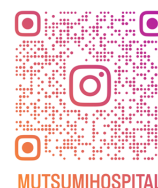
日曜、祭日、年末年始



当院は予約優先となっております。直接来院された場合、当日中に診察が出来ない場合がございますので、事前にご連絡をお願いいたします。

 むつみホスピタル

診療科目 / 精神科・診療内科・内科
徳島県徳島市南矢三町3丁目11-23



MUTSUMIHOSPITAL

入院希望、新患予約の方は、地域連携室までご連絡ください。

TEL : 088 - 631 - 0182 (月-土曜日、8:30 - 16:30)